

公報

○上野會場第九號
在東京下野會場第九號...
分府...
七月一日...
明治十七年六月十七日
工部卿 佐々木高行
一 唐津分局...
一 東京其他各分局...
一 江蘇分局...
一 東京其他各分局...
一 江蘇分局...
一 東京其他各分局...

紋任

Table with columns for rank (e.g., 任歩兵中尉), name (e.g., 福原 豊功), and other details. Includes names like 佐々木 直, 九里 孫次郎, 清上 秀休, etc.

時事新報

日本教法ノ前途如何
我輩ノ前説ノ紙上ニ今日世界ノ大勢ニ於テ日本ニモ耶蘇教
ナ流行セシムルノ利蓋ナル所以ナリ...

此五者ガ人ノ信心ヲ収獲スルカアルコト説明セリト欲セバ
其傾度ニ乏シカラズト雖モ思フニ其理ト事實ト共ニ明白情
馬ニテ聴察ナレバ諸君ハ自カカテ之ヲ會得スベシト
思ハ我輩ハ眞ニ無算ニ多言ヲ費サズテ唯此五者ハ人間
交際上ニ於テ人ノ信心ヲ収獲スル元素ナリト定メテ直ニ
第二ノ疑問ニ進ミ此五個ノ元素ヲ有スルハ佛者ト耶蘇教徒
ト孰レカ最多キヤト考究セントス (以下次號)

電報

○六月十七日午後四時二十分神戶發 三條太政大臣には只
今東京凡に乘込み歸京の途に就きし

雜報

○内閣出御 聖上には御不例以來内閣へ出御遊ばされざり
しが昨日午前十時伊藤宮内卿の御先導にて内閣へ出御在せ
給ひ親しく政務を問し召され正午十二時入御遊ばされし
やに承はる
○花の御宴 皇居宮には御内庭に培植させ給ひし御花壇に
撫子今を盛りと咲き亂せるを以て本日各皇族の御息所を始
り御外戚の方々々宮中へ召させ給ひて賞花の御宴を開かせ
給ふよし
○皇子明宮 同宮には昨日同宮御用掛徳大寺侍從長其他祇
候華族十名を御前召させ給ひ御膳食を御付られ其際式部
寮の俗人を召して奏樂を聞し召されたるよし
○山階宮 隨伴二名、少壯の日本人十五名と共に去る
五月廿日米國ナカガ府に到着し處々遊覽の上順て紐育府よ
赴くる、等なり又其少壯人士ハ米國に留學するもあり或之
調遣及び佛國に赴きて各學術研究を遂ぐるものもあらんと
五月廿一日ナカガ府發の報道に見へたり
○沿海巡視 有栖川三品威仁親王始の榊山海軍大輔、仁禮
同少將の一行は本日比較敵へ乗組され内閣沿海を巡視する
との旨と前號紙上ニ記載せしが都合に依りて一日遅延し
明十九日午前六時四十五分新橋發の汽車にて横濱へ赴られ
該處へ乗組の上同八時三十分解纜し都合なりといふ
○三條太政大臣 三條太政大臣は去る十二日京都府より大
阪府へ着し同十三日は大阪府廳、警察本署、控訴、始末判
裁所等、同十四日は大阪府廳、砲兵工廠、造幣局、博覽場
等を巡視したり
○同期 山縣内務卿は去る十四日大阪府より神戸へ向ひ出
發し、西條陸軍卿は本月六日大阪へ着し今十二日神戸へ終
り神戸再び歸朝した
○英國皇太子 五月十八日倫敦に里蓋の報に由る英國皇
太子ウエールズ親王は當時已皇太子奉命親征兵士なく自京
に前衛を敷設して各所を遊覽せり皇太子の取付法に於ては同府
の要領皇太子と稱せしむることと全く異なる由なりしが新聞の
次第をれば全く異なるものと知るべし

後詳日本
理する由蓋
及び奉注の
參政して朝
○縣令歸任
七日、同三
○金剛艦長
一昨十六日
○陸海軍
軍中佐磯邊
二方面副提
麻副提理よ
免し歩兵第
は免せられ
○官廳費
具兼雜收入
第三部酒稅
慎氏の生徒
れ、農商務
錄所長中付
氏は一昨十
れ官報々々
省一等屬上
比一昨日民
少講義三泰
づ、昇等
少書記官は
日職れも
○鐵道總
輝の三條は
海あ於て
發し、金剛
○長途行
して去る十
○陸所増
歩兵一大
真七千自
○洋艦
所と見せ
○海員及
歸國と受
○官の二
は同二等
作、石川